

---

# それぞれの手

広河陽

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

それぞれの手

### 【Nコード】

N6461X

### 【作者名】

広河陽

### 【あらすじ】

剣と魔法の世界。探索の途中、パーティーは吹雪に足止めされる。たき火の側で木を削るドワーフの手元に、戦士はみいつていた。異世界ファンタジーRPGの平和な1シーンをイメージして書きました。

自身のサイト「ふみかばんのほーむ」より転載したものです。

彼らは大地に祝福されし一族。ゆえに生まれつき土や石や木と言葉をかわすことができる。人は彼らを、土の妖精ドワーフと呼ぶ。

一面、氷雪の白い世界に冒険者たちはいた。彼らは猛烈な勢いで吹きつける吹雪のためにこの地に足止めされていた。

たき火の小さな、けれども充分に暖かな光が洞窟内の冒険者たちの寝顔を照らしている。

剣抱く女剣士。穏やかな寝息をたてる巫女。まだあどけない少年。ローブをまとった茶髪の魔術師。その魔術師と寸分違わぬ顔の戦士。

火のはぜる音と彼らの寝息の他に別の音が混じっていた。

シュツ、シュツ、シュツ。

躍動感に満ちたその音は小気味良く、幾度も幾度も繰り返される。

戦士は、いつしかその音が生まれる瞬間にみいつていた。その音は仲間の老ドワーフが木を削る音だった。氷の国の長い寒さに耐えてきた木の小片は、老ドワーフの手中で草原の国の蒼穹を翔ける鳥身へと姿を変えていく。

まったくドワーフたちは器用だ！ 戦士はつくづくと感心した。すると唇から自嘲めいた呟きがこぼれた。

「俺の手は剣をふりまわすしか、能がないからな……」

すると老ドワーフは手を止め、戦士に向かって笑んだ。

「だがわしは、その手に何度も助けられた」

そう言うと、また木を削り出す。

まだ若い戦士は、老ドワーフの言葉をかみしめながら、自分の手をじっと見た。

外ではもう、吹雪はやんでいた。

FIN

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6461x/>

---

それぞれの手

2011年11月6日02時13分発行